こすもす保育園だより

2月1日は、少し早目の豆まきを行いました。色とりどりのお面をつけた子ども達が大集合。「保育園にオニがやってきても負けないぞ！」と張りきっていた子どもたち。

「オニはそと！」春を呼ぶ元気なかけ声が園内に響きわたり、今年もすこやかに春を迎える事ができそうです。

こすもす保育園　園長　小林保子

宮前コスモスの家だより

グループ「華」だより

宮前コスモスの家で毎月1回開いている絵画サークル「グループ華」。

今回は、シャンパンとマスカットを描きました。とても爽やかな色使いです。

また、バックの黄色が瓶とマスカットの色を際立たせています。

先生も、指導に熱が入ります。みなさんも真剣な表情で創作に取り組んでいらっしゃいます。

寄付金のお願い

コスモスの家が川崎市の条例指定および認定NPO法人の案件の一つに毎年度ごとに寄付金（一世帯一人）三千円以上の方50名が必要となります。

また、NPO法人の活動支援としても寄付を募っております。金額については、いくらでも結構です。皆さまのご理解、ご協力を心からお願い申し上げます。

お知らせ

訪問介護事業・夕食宅配事業閉鎖

このたび、当事業所の訪問介護事業と夕食宅配事業を諸般の事情により平成31年3月31日に閉鎖することとなりました。

皆様のご厚情をいただきまして、今日まで営業を続けてまいりましたこと、また長年にわたるご厚情に心から感謝申し上げますとともに、突然の閉鎖でご迷惑をおかけしますことを深くお詫び申し上げます。なお、居宅介護支援事業（ケアプラン）およびデイサービス事業は引き続き継続いたしますので、いままでと変わらないご支援、ご協力をお願い申し上げます。

NPO法人秋桜舎・コスモスの家

理事長　渡辺ひろみ

コスモスだより

2019年
No. 110

特定非営利活動法人・秋桜舎
コスモスの家
〒214-0034 川崎市多摩区三田一-五-三
TEL 〇四四-九三一-二四二五 FAX 九三一-二四四二

超高齢化社会の行方！

レポート

～介護の現場から～

来年は介護保険制度施行から20年になります。東京オリンピックが開催され、5年後2025年には大阪万博開催も決定しました。

戦後の高度経済成長時代を彷彿させるような国を挙げての大イベントが開かれる中、深刻な社会問題が待ち受けていることをご存知でしょうか？

それは、2025年問題です。

団塊の世代が2025年頃までに後期高齢者（75歳以上）に達することにより、介護・医療費等の社会保障費の急増が懸念されている問題です

2015年には既に「ベビーブーム世代」が前期高齢者（65～74歳）に到達しています。

世帯主が65歳以上の高齢者は、2025年には1840万世帯となり、また、高齢者世帯の約7割を独り暮らし、高齢夫婦のみの世帯が占めると見込まれていて、中でも、高齢者の独り暮らし世帯の増加が著しく、約37％に達すると見込まれています。

- 医療費の不足
- 病院や医師、看護師の不足
- 認知症患者の急増
- 社会保障費の不足
- 介護職員の不足
- 少子高齢化に伴い年金制度の崩壊
- 要介護者数の増加
- 孤独死の増加・・などが挙げられます。

この問題の対策として国は、

- 国民健康保険、後期高齢者医療の低所得者に対する保険料軽減措置の対象拡大
- 高額療養費制度の負担額について所得に応じて見直し
- 中低所得世帯の負担軽減
- 介護保険第1被保険者（65歳以上）の低所得者についてさらに保険料軽減
- 短時間労働者への厚生年金・健康保険の適用拡大、等を対策として挙げています。

～現場から見る介護の現状、そしてこれから～

今現在、介護の現場ではどのようなことが起きまた、家族や介護者が抱えている問題をコスモスの家水野正代ケアマネジャーに取材しました。

Q介護保険制度が開始されてから約20年ですが、これまでの経過や変化など、率直な感想、またご意見をお聞かせください。

A水野（以下（水））私がケアマネジャーになったのは11年前ですが、その当時は、利用者も家族も介護保険を利用するひとはあまりいませんでした。その頃は「国のお世話にはならない」という考えの方が多かったし、周囲も「高齢になった家族を施設に入れるなんて」という批判的な風潮もありました。デイサービスに通うことやヘルパーが入ることさえもです。デイサービスの送迎車が家の前に行くのも嫌がるご家族もいらっしゃって「ご近所の目もあるから、社名の入っていない、普通の乗用車で迎えに来て欲しい」とか。

Q今は、当たり前ですよね。

A（水）制度が浸透していなかったんですね、あとやはり「家族が世話をするもの」という考えが当然でしたし。でも、ここ十年で介護保険が浸透し、核家族化も進み、老老介護の件数も増えたことが印象的ですね。

Q夫婦がお互いを介護する状況ですね。

A（水）今の時代、「老老介護」とは、夫婦だけではないです。親子二代、三代に渡って介護保険制度を利用することになってきていることに驚いています。

Q親子二代、三代で介護とは？

A（水）私がケアマネジャーになった当時、親御さんを介護していたそのご本人が介護保険を利用する年齢になったという状況です。例えば65歳～70歳の方が80～90歳代の親を介護していたり、親の介護が終わったけれども今度はご自分に介護が必要となる、あるいは、子供の方が先に亡くなってしまい、孫が祖父母を介護するということです。

（裏面へ続く）

コスモスの家
ケアマネジャー
水野正代

1997年食事作りのスタッフとして勤務、その後ヘルパー2級を取得し、デイサービス、ホームヘルパーを兼務。2008年に介護支援専門員（ケアマネジャー）資格を取得、今現在は主任ケアマネ取得のため研修中。

Q これからは、孫の世代が自分の親、祖父母の両方を介護するということもありえますよね？

A （水）十分あり得ると思いますし、今そうなっているケースもあります。ただ、子どもや孫の世代は働き盛りであったり、共働きも多いので、日中は介護できない家庭が多いです。20年前は今ほど高齢者が日中一人になることがなかったですね。介護者（主に配偶者と嫁や娘）が介護に疲れ、自分の時間も持てない、週に1回だけでもデイサービスに行ってもらって、その間リフレッシュする、というケースが多かったです。今は、お仕事をしていらっしゃる方がほとんどですから、高齢者の日中独居の数は多くなっています。家族が一人にしておくのは心配なので、デイサービスに毎日来られる方もいますし、毎日ヘルパーがサービスに入ることもあります。

Q 介護保険導入で介護の社会化が進んだ？

A （水）そうですね、そういう意味では制度がきちんと浸透してきたとは思いますが、同時に家族の介護力は低下して来た感はありますね。介護保険制度を利用する高齢者は年々増え続けています。しかし、介護士の数が圧倒的に不足しています。

介護保険制度を使う人が増えたけれども、介護の担い手がいない、2025年には、4人にひとりが高齢者になる時代が来るのにですよ。利用者と同じようにヘルパーや介護福祉士、ケアマネも高齢化が進んでいます。

Q 介護の担い手がいない原因は？

A （水）やはり、報酬が少ないことでしょうね。医療・介護は、他事業職と比較しても低いです。

Q 外国人労働者を雇用するという計画もありますが。

A （水）言葉の壁が大きいですね。大きな施設などは、日本人スタッフがフォローできますが、個人宅を訪問するヘルパーとなるとコミュニケーションが取れないと、難しいです。特に認知症の方とのコミュニケーションは、日本人でも困難な場合もありますから。

Q 人口も減ってきていますし、今は病院も入院してもとにかく早く退院してもらって、在宅で家族が看取るという方向に向いていきていると思うのですが。

A （水）介護保険制度が浸透してきて、「介護か。国も有資格者でない人たちに参加してもらって解決を図ろうとしているようですね。

Q 有資格者と無資格者との線引きが難しいと思うのですが。

A （水）例えば、訪問介護（ホームヘルパー派遣）のサービスは今後、身体的なことが中心になっていきます。家事系の生活援助だけのサービスは縮小され、いずれは介護保険ではなくなっていくと思われます。

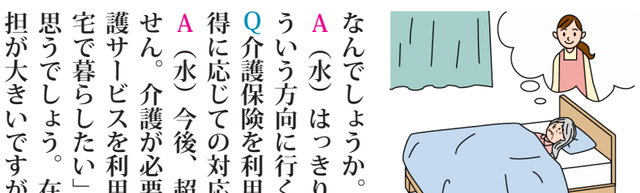
Q だから、生活援助サービスを無資格の方々にということなんでしょうか。

A （水）はっきりとは決まっていませんが、そういう方向に行く動きはありますね。

Q 介護保険を利用した際の個人負担の割合も所得に応じての対応となっていますね。

A （水）今後、超高齢化が進むのは止められません。介護が必要になっても、「介護サービスを利用してできるだけ自宅で暮らしたい」とほとんどの人が思うでしょう。在宅介護は家族の負担が大きいですが、家族介護だけでは限界がある。介護保険サービスを利用せざるを得ない、ただ、たくさんサービスを利用すれば、それだけ介護費用がかかる。全てを介護保険で賄うことはできませんから。そういった問題をどうするか、これからの大きな課題です。

取材を終えて、感じたことは、介護にも「格差」が生じてきているようです。これから迎える超高齢化社会にどう向き合うかこれまでに類を見ない超高齢化社会に対して日本がどういう政策を出していくのか、今後のモデルケースとなりうることに、世界が注目しています。　取材　コスモスの家　藤井さゆみ



めだかの地域大学
クリスマス☆コンサート

コスモスの家が年に2回開催している「めだかの地域大学」第2回目は、生田中学校吹奏楽部と三田わくわくプラザのダンスチーム「MITTAKO DANCE」によるクリスマスコンサート。今年で8回目となりました。

毎年このコンサートを楽しみにしてくださっている地域の方々もいらっしゃいます。

この日も大勢の方が来てくださいました。

初釜＆百人一首大会

今年で、7回目を迎える、初釜。世代を超えての交流会となっています。

毎年、近隣の方々が来て下さり、生田中学校の生徒さんが点ててくれたお茶を頂きながら、お話ししたり、百人一首大会をします。生徒さんが一生懸命考えたクイズやパフォーマンスも楽しみの一つです！